

サードプレイスは地方圏に何をもたらすのか？ —— OKESA BAR BUNZOの事例にみられる創発効果に注目して 渡辺 瑛仁

【要旨】

本研究は、地域コミュニティの活性化を図る取り組みの1つとして注目されているサードプレイスに着目する。近年の日本では、特に地方圏の人口減少が著しく、地域社会におけるコミュニティの維持が難しくなっている。そこで、地方圏のコミュニティの弱体化を改善する一助として、R.オルデンバーグが提唱するサードプレイスの概念を用いて、理論的・実証的研究に取り組み、地域社会におけるサードプレイスの機能や創発効果を生み出す条件を明らかにすることを本研究の目的とする。

新潟県佐渡市における事例研究の結果、サードプレイスが地域社会において継続的に機能するために必要な経営上の工夫や、交流の場となるための条件が明らかになった。また、サードプレイスからもたらされる創発効果として、新たなまちづくりの展開の可能性についても示した。本研究の成果は、地方圏の地域コミュニティの活性化につながる知見になると考える。

【講評】

「サードプレイス」という地方活性化につながる第3の場であるコミュニティを使って今後どのような可能性があるのかを検討した研究である。本論の大きな特徴は研究対象の場に何度も足を運び、インタビューを実施するなど、現場の生の声を研究に取り込んだことにある。問題解決の手法として社会学の観点から問題点を洗い出し、先行研究の成果を駆使して新たな方向性を提示した。

著者のOKESA BAR BUNZOに対する関心(好感度)の高さをうかがえる内容であり、「サードプレイス」という視点で論文の形式にうまく整理されている。